

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた題材構想〈小・家庭〉

特別研修員 家庭 大河原 真奈美（小学校教諭）

題材名 『楽しくソーイング』（第6学年） 全10時間計画

題材のねらい

算数バッグの大きさを考えたり、製作手順を考えたりする実践的・体験的な活動を通して、トートバッグを製作するための知識及び技能を身に付けるとともに、生活を豊かにするトートバッグを製作しようとする実践的な態度を育成する。

地域の人材を活用した題材構想

本題材では、地域のバッチワーク教室の先生と生徒5名の方にボランティアとして、つかむ過程から追究する過程までの全9時間を支援していただきました。つかむ過程では、ボランティアの方が製作した作品を見せていただくことで、学習意欲を高め、袋の活用について振り返り、教科書や問題集、コンパスなどを入れるための算数バッグの製作を題材の課題として掲げました。追究する過程では、使いやすい大きさを調べたり、製作手順を考えたりする実践的・体験的な活動をボランティアの方に支援していただき、製作に必要な知識や技能を身に付けられるようにしました。まとめる過程では、算数バッグを実際に使用してから発表会を行い、身に付けられた知識や技能を自覚させるとともに、新たな課題に気付けるようにし、今後の実践につながるようにしました。

過程	主な学習活動	地域の人材を活用した指導
つかむ(1)	<p>1. 題材の課題を設定する。</p> <p>○学校生活での袋の活用を振り返り、問題を見だし題材を貫く課題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>使いやすい算数バッグを作るには、どうしたらよいだろうか。</p> </div> <p>○袋調べをして、出てきた課題を基に学習計画を立てる。</p>	<p>学習意欲を高める工夫</p> <p>○ボランティアの方の製作した作品を見せていただくことで、材料の選び方や縫い方、デザインの工夫を知り、製作への興味や学習意欲を高められるようにする。</p>  <p><ボランティアの方との交流の様子></p>
追究する1(2)	<p>2. 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。</p> <p>○模造紙とマスキングテープで袋を作り、算数セットを出し入れし、使いやすい大きさを調べ、型紙を作る。</p>  <p><模造紙の袋で大きさを確かめる様子></p> <p>○試作布をホチキスで留めて、トートバッグを作り、縫う順番を考える。</p>  <p><試作布をホチキスで留める様子></p>	<p>試行錯誤を促し、実感を伴った理解につなげる工夫</p> <p>○罫線付きの模造紙やマスキングテープを使うことで、折ったり、調整したりしやすくし、使いやすさを試させることで、ゆとりの必要性を理解できるようにする。</p> <p>○布をホチキスで留めさせることで、縫う順番だけでなく、工程や縫う順番によって仕上がりが変わることを理解できるようにする。</p>  <p><何度かやり直しができるように活動を支援></p>
追究する2(6)	<p>3. 題材の課題の解決に向けた実習計画を作成する。</p> <p>○学習した知識や技能を活用して、工夫しながら、算数バッグの実習計画を立てる。</p> <p>4. 題材の課題の解決に向けた実習をする。</p> <p>○型紙を使って布を裁ち、しるしを付ける。</p> <p>○算数バッグの脇を縫う。</p> <p>○算数バッグの出し入れ口を縫う。</p> <p>○算数バッグの持ち手を縫う。</p>  <p><型紙を使って布を裁つ様子></p>	<p>自分らしい工夫を凝らした作品の計画と実習</p> <p>○個人で考えた実習計画をグループで検討させ、全体で意見交流させることで、既習事項を生かした積極的な工夫を促す。</p> <p>○材料を個人で用意させることで、思いをより反映できるようにし、柄や素材、デザインに合わせた裁断や縫い方を個別に指導する。</p>  <p><実習計画の相談に乗る様子></p>  <p><布・デザインに合わせた個別支援></p>
まとめる(1)	<p>5. 題材の課題の解決についてまとめたり、振り返ったりする。</p> <p>○班で発表会をして、学習課題について解決できたかを確認し、今後の生活に生かしてみたいことを考える。</p>  <p><班での発表会の様子></p>	<p>実践に生かせるようにするための発表会の工夫</p> <p>○題材の課題である「使いやすさ」がどうだったのかを具体的に評価させるために、使用してから発表会を行う。</p> <p>○発表会で出てきた改善策を全体で共有、検討させ、幅広い視点で改善策を考えられるようにし、今後の実践に生かせるようにする。</p>

指導例：『楽しくソーイング』（第6学年 第1時）

指導のポイント

1 生活の中から問題を見いだす。

○学校生活で使っている袋を持ち寄り、袋の活用について振り返り、袋の製作によって解決できる問題を見いだす。

T：学校生活で使っている袋には、どんなものがありますか。

S：体操着バッグ。S：コップ入れ。S：鍵盤ハーモニカバッグ。

T：これらの袋があると、どのようなよさがありますか。

S：持ち運びや収納に便利です。S：中の物が傷つかないようにできます。

S：自分の目印になるので、すぐに自分の物が分かります。

T：学校生活の中で、持ち物の管理や移動の時に袋がなくて不便さを感じることはないですか。

S：あります。袋があれば、生活が便利になりそうです。

2 本時のめあてをつかむ。

T：どのような課題がよいでしょうか。

S：ミシンを使って学校で使える袋を作りたいです。

めあて 学校生活を便利にする袋を考えよう。

3 見いだした問題を基に、題材の課題を立てて、学習の見通しをもつ。

○共有する問題を基に、解決すべき課題について話し合う。

T：どのような袋があったら、学校生活が便利になりますか。

S：算数セットを入れるためのバッグがあると便利だと思います。

S：使いやすいバッグを作りたいです。

題材の課題 使いやすい算数バッグを作るには、どうしたらよいだろうか。

○袋調べをして、分かったことや調べたい課題をまとめ、学習計画を立てる。

T：まず、トートバッグについて知るために、材料や縫い方を調べましょう。

S：ボランティアの先生が持ってきてくれたトートバッグもあるよ。

S：持ち手の長さによって持ち方が変わるね。

T：バッグの大きさはどうですか。

S：中に入れる物より少し大きめに作ってあります。

T：トートバッグはどんな形の布で作られているのか、ほどこいてみますね。

S：長方形の布からできているのだね。

どこを縫ってあったのかな。

S：縫い目が外から見えないようになっていて、縫い代は内側に入っているね。

S：どうやって縫っているのかな。

T：みんなから出された意見を表にまとめて、<袋の構造を調べる様子> 10時間の学習計画を大まかに立ててみましょう。

S：どんな流れで学習していくのが分かったの、早く調べたいな。

4 一人一人が本時の振り返りをする。

○本題材の学習を通して、どのようなことを学びたいか考えて、振り返りに書く。

☆持ち運びが楽になるので、早く使いやすい大きさの算数バッグを作りたい。

☆算数バッグをどんな順番で作ればよいのか知りたい。

学ぶ必要感をもたせる

○学校生活で使用している袋を持ち寄り、袋の使用について振り返らせることで、袋の便利さに気付かせ、袋の製作に興味をもたせるようにする。

○物の管理や持ち運びなどの観点から、問題を見いださせて、学ぶ必要感をもたせるようにする。

題材の課題設定の工夫

○解決すべき課題について学級全体で話し合わせて、共通する課題を明確にする。

○題材の学習後の姿を踏まえて、課題を立てさせる。

地域の人材の活用

○作品を持参していただき、袋調べの活動で児童と交流する場を設定する。ボランティアの方の緊張をほぐし、その後の支援が円滑にできるようにする。

○高い技能で工夫の凝らされた作品を見せてもらうことで児童の製作意欲を高める。

作り方に興味をもたせる工夫

○仮縫いしたトートバッグをほどこいて見せることで、袋の構造や縫い代が内側にあることに着目できるようにする。

主体的な学びにする工夫

○袋調べの活動を行い、作り方や大きさの決め方についての疑問をもたせるようにする。それらを解決するための学習計画を立てるようにし、題材全体の学習の見直しをもって、学習できるようにする。



<ボランティアの方の作品を見せてもらう様子>



<袋の構造を調べる様子>

指導例：『楽しくソーイング』（第6学年 第3時）

1 本時のめあてをつかむ。

○学習計画表を見て、袋調べで出てきた課題について振り返り、本時のめあてを確認する。

T：学習計画表を見ると、本時は何について学習しますか。

S：算数バッグの作り方についてです。

T：作り方については、1時間目の袋調べでどんな課題ができましたか。

S：「持ち手、脇、出し入れ口をどんな順番で縫えばよいのだろうか」です。

T：本時は、この3か所をどんな順番で縫ったらよいのか調べてみましょう。

めあて 算数バッグは、どんな順番で縫えばよいのだろうか。

2 実践的・体験的な活動を行う。

○個人で試作布をホチキスで留めながら、縫う順番を考える。

T：持ち手、脇、出し入れ口の3か所のどこから縫えばよいのか、見本のトートバッグを見て、まず予想しましょう。

S：持ち手は最後だと思います。

S：布の重なり方から、脇からだと思います。

T：各自予想した順番で試作布をホチキスで留めてみましょう。留め直しがすぐにできる <個人で縫う順番を考える様子> のので、自分の予想を試して、縫う順番をワークシートに書きましょう。

S：まずは、出し入れ口を三つ折りにして留めてみよう。

S：半分に折って、脇を留めてから、出し入れ口を留めてみよう。



3 全体で共有し、まとめる。

○班で試作布を見せ合ったり、意見を交流したりして、縫う順番やその理由を考える。

T：縫う順番を話し合っ、黒板に出し入れ口、持ち手、脇のカードを順番に貼ってください。

S：出し入れ口から縫うと、脇の縫い代が出し入れ口に出てしまうから、じゃまになるよ。

S：脇から縫うと出し入れ口に縫い代が出ないね。

S：縫う順番が違ると、出来上がりが変わるのだね。

S：脇、出し入れ口、持ち手の順番で縫えばよいのだね。

○班ごとの気づきを基に、製作手順について一般化した言葉でまとめる。

T：全班が、脇、出し入れ口、持ち手の順に縫うという意見ですが、理由を発表してください。

S：脇から縫った方が、布の重なりが少ないので、縫いやすく、きれいに仕上がります。

S：脇から縫った方が、出し入れ口の三つ折りの下に縫い代が隠れるので、物を取り出す時に、じゃまになりません。

T：算数バッグは、脇、出し入れ口、持ち手の順番に縫うと、きれいに、使いやすく作れるのですね。



<班で話し合う様子>



<全体で発表する様子>

4 本時の振り返りをする。

○学習で分かったことや製作に生かしたいことをワークシートに書く。

☆算数バッグを、脇、出し入れ口、持ち手の順に縫うことが分かった。

☆縫う順番を間違えずに作って、仕上がりがきれいになるようにしたい。

指導のポイント

学習の見通しをもたせる

○学習計画表を毎時間確認して、めあてを設定することで、学習の流れをつかみやすくし、学習への見通しをもたせるようにする。

主体的で実感を伴った学びにする工夫

○試作布をホチキスで留めたり、外したりして、個人で試しながら縫う順番を考えさせることで、平面の布が袋状になっていく工程を理解できるようにする。

○布を扱わせることで、縫うためには縫い代が必要なことや布端はほつれやすく始末が必要なことを、実感を伴って理解できるようにする。

○試作布は柄があり、裏表が分かりやすい布にすることで、布を中表に重ねるよさに気付けるようにする。

地域の人材の活用

○ボランティアの方に活動を支援していただき、個人で試しながら調べる時間を確保できるようにする。

深い学びにつなげる工夫

○様々な留め方の試作布を班で比較させ、話し合わせることで、縫う順番によって仕上がりが異なってくるにも気付けるようにし、縫う順番だけでなく、順番を考えることの意義にも気付けるようにする。

実習に生かせるようにする工夫

○得られた知識は毎時間、模造紙にまとめて、家庭科室に掲示しておくことで、児童が必要な時に振り返れるようにする。

指導例：『楽しくソーイング』（第6学年 第10時）

1 本時のめあてをつかむ。

○学習計画における本時の位置付けを確認する。

T：本時は学習計画を見ると、学習のまとめとして、算数バッグの発表会で
すね。どのようなめあてにしますか。

S：作品発表会で友達のトートバッグを見せてもらいたいです。

S：トートバッグの作り方をまとめて、次の製作に生かしたいです。

めあて 作品発表会をして、トートバッグの作り方についてまとめて、こ
れからの生活に生かそう。

2 実践の評価を基に、改善策を検討する。

○算数バッグを実際に使用してから評価を行い、班で発表会を行い、よくで
きたところや改善策をホワイトボードに書き、全体で交流する。

T：使ってみてどうだったか評価をして、ワークシートによくできたところ
や改善策を書いて、発表会を行いましょう。

S：私は、肩から掛けられるように持ち手を長
くしたら、机の横にぶら下げたときに床に
ついてしまったので、もう少し短くすれば
よかったです。



<班での発表会の様子>

S：トートバッグを作るときには、持ち方だけ
でなく、使い方まで考えて、持ち手の長さ
を決める必要があるのだね。



<肩掛けできるようにした作品>

T：班の発表会で出てきた改善策をホワイト
ボードに書いて、発表してください。

S：○班では、ポケットにも手が入るゆとりが
必要だったという改善策が出ました。



<本体と柄を合わせたポケット>

S：□班では、しわになりづらくて、ほこりが
目立たない色の布がよいという改善策が出ました。

S：△班では、持ち手をねじれた形で付けてしまい、縫い直したので、しつ
け後にもう一度確認してから縫うという改善策が出ました。

T：今後の実践に生かせる改善策がたくさん出ましたね。

3 題材の課題についてのまとめをする。

○改善策や新たな課題を発表し合い、題材の課題についてまとめる。

T：トートバッグの作り方についてまとめましょう。

S：発表会で出てきた改善策も入れて、使いやすいトートバッグを作れるま
とめにしたいです。

○題材を通して身に付けられた知識や技能を振り返り、学習課題について解
決ができたか確認する。

T：題材を通して、どのようなことを身に付けることができましたか。

S：トートバッグの作り方が分かり、作れるようになりました。

4 題材全体の学習について振り返りをする。

○友達作品や意見で参考になったことや今後の実践に生かしたいことを
振り返りに書く。

☆肩に掛けられると楽し、両手が空いて便利だから、持ち手を長くして今
度は作ってみたいです。

☆入れるものや使い方や置く場所も考えてから、布や大きさ、形を決めて、
家族にトートバッグを作ってプレゼントしたいです。

指導のポイント

実践につなげるめあての設定

○学習計画を確認し、本時は題材の
学習のまとめであることを確認さ
せ、これからの実践につながるま
とめになるようにする。

評価の工夫

○題材の課題で「使いやすい算数バ
ッグ」を目指したため、実際使っ
てみた上で、布の選び方、形や大き
さの決め方、持ち手やポケットのデ
ザイン、縫い方を評価させ、改善策
を考えさせるようにする。

よりよい実践につなげる工夫

○班で出た改善策や新たな課題を
ホワイトボードに書いて発表させ
ることで、全体で共有したり、
検討したりしやすくする。学級全
体で多様な意見を交流させるこ
とで、幅広い視点を持ち、今回の
実践を改善できるようにする。

実践につなげるまとめ方の工夫

○布の選び方、形や大きさの決め方、
持ち手やポケットのデザインの工
夫、裁ち方、縫い方などの項目に分
けて、改善策を入れながら、トート
バッグの作り方についてまとめる
ことで、今後の実践に生かしやす
くする。

生活に生かそうとする
態度を育成する

○題材を通して学んだことを自覚さ
せ、これからの生活に積極的に生か
していこうという意欲付けをする。

家庭科学習指導案

令和元年10月～11月 第6学年 指導者 大河原 真奈美

I 題材名 「楽しくソーイング」

II 学習指導要領上の位置付け

B 衣食住の生活

(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。

(イ) 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。

イ 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。

III 目標

トートバッグを製作する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア トートバッグの製作に必要な材料や用具、製作手順、袋のゆとりの必要性について理解し、ミシンやアイロンなどを安全に使い、目的に応じた縫い方でトートバッグを製作することができる。 (知識及び技能)

イ トートバッグの製作計画について考え、デザインや製作手順を工夫して製作している。 (思考力、判断力、表現力等)

ウ 布を用いた袋の製作に必要な材料や手順について関心をもち、意欲的に取り組み、これからの生活に生かそうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1/10）

- ねらい 学校生活での袋の活用について振り返って問題を見だし、題材を貫く課題を立て、袋調べで気付いたことを基に学習課題を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもてるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 学校生活の中から問題を見出す。（7分）			
○学校生活で使っている袋を持ち寄り、大きさや形とそれに関連した用途についてつかませ、袋がどのように活用されているか見直すことで、本時の学習への興味をもたせる。			
○学校での持ち物の管理方法や移動教室への移動の仕方を振り返らせて、袋がなくて不便さを感じる場面がないか発表させ、今の自分たちが抱えている問題に気付かせる。			
2 本時のめあてをつかむ。（3分）			
めあて 学校生活を便利にする袋を考えよう。			
3 見いだした問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。（30分）			
○見いだした問題を解決するためには、どのような課題を立てるか考え、発表させる。			
題材の課題 使いやすい算数バッグを作るには、どうしたらよいだろうか。			
○持ち寄ったトートバッグを見合い、使っている材料や縫ってある箇所について調べさせる。			
○使用用途が決まっているトートバッグの大きさを調べさせることで、袋には適切なゆとりが必要なことに気付けるようにする。			
○仮縫いしておいたトートバッグをほどいて見せ、長方形の布を半分に折って作られていることをつかめるようにする。			
○全体で分かったことを発表させて共有し、分かったことや調べたい課題を模造紙にまとめる。			
○それらを基に、題材の課題を解決するための大まかな学習計画を立て、題材の見通しをもたせる。			
ミシンを使った袋の製作に興味をもち、学習への意欲をもっている。＜振り返り・発言(1)＞			
4 一人一人が本時の学習の振り返りをする。（5分）			
○本時の学習を振り返り、本題材の学習を通して、どのようなことを学びたいか、これからの学習への意欲付けを図り、見通しをもたせる。			
☆持ち運びが楽になるから、使いやすい算数バッグを早く作りたいな。			
☆どのような順番で作ればよいのかな。			

V 本時の展開 (3/10)

- ねらい 試作布とホチキスを使って縫う順番について話し合う活動を通して、製作手順について理解できるようにする。
- 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。(5分)	<ul style="list-style-type: none">○本時の学習内容について確認する。○本時は、袋調べで分かったことを確かめたり、出てきた課題について、布をホチキスで留めながら考えたりすることを伝える。		
	めあて 算数バッグは、どのような順番で縫えばよいのだろうか。		
2 実践的・体験的な活動を行う。(15分)	<ul style="list-style-type: none">○「脇」「出し入れ口」「持ち手」の縫う順番を、ホチキスで試作布を留めながら考えさせる。○ホチキスで試作する上での注意点を説明する。○見本のトートバッグを基に、布の重なり方を参考にして、縫う順番を考えるように伝える。○ボランティアの方には、安全にホチキスを外したり、留めたりする作業を支援してもらう。		
3 全体で共有し、まとめる。(20分)	<ul style="list-style-type: none">○班で縫う順番を話し合わせて、縫う順番や理由を発表させる。○「脇」「出し入れ口」「持ち手」の3か所の縫い方について、どのように縫ったらよいか、まとめる。○マチを付ける場合には、最後に縫うことを説明する。		
	算数バッグの製作手順について理解している。<ワークシート・発言(4)>		
4 本時の振り返りをする。(5分)	<ul style="list-style-type: none">○本時の学習で分かったこと、算数バッグの製作にどのように生かしたいかを振り返りに書くように伝える。 <p>☆算数バッグを、脇、出し入れ口、持ち手の順に縫うことが分かった。</p> <p>☆縫う順番を間違えずに作って、仕上がりがきれいになるようにしたい。</p>		

V 本時の展開 (10/10)

- ねらい 製作した算数バッグを実際に使用して振り返り、評価・改善することを通して、トートバッグの製作についてまとめ、今後の実践に生かせるようにする。
- 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。(5分)	○班ごとに算数バッグの発表会をすることを伝える。 ○どのようなめあてをもって、発表会を行うか問い掛ける。		
めあて 作品発表会をして、トートバッグの作り方についてまとめて、これからの生活に生かそう。			
2 実践の評価を基に、改善策を検討する。(20分)	○算数バッグを実際に使用してみたの評価を行い、よくできたところや改善策をワークシートに書くように伝える。 ○班で発表会をして、相互評価を行い、改善策やみんなに紹介したい工夫、新たな課題について検討し、ホワイトボードにまとめさせる。		
3 題材の課題についてのまとめをする。(15分)	○ホワイトボードを黒板に貼り出し、改善策や新たな課題を発表し合い、トートバッグの製作についてまとめる。 ○題材を通して身に付けることができた知識や技能について振り返るように伝える。		
トートバッグの製作についてまとめ、これからの実践に生かそうとしている。 ＜ワークシート・観察(1)＞			
4 題材全体の学習について振り返りをする。(5分)	○友達の作品や意見で参考になったことや今後の実践に生かしたいことを問い掛ける。 ☆肩に掛けられると楽し、両手が空いて便利だから、持ち手を長くして今度は作ってみたいな。 ☆入れるものや使い方や置く場所も考えてから、布の大きさ、形を決めて、家族にトートバッグを作ってプレゼントしたいな。		

指導計画 家庭科 第6学年 題材名「楽しくソーイング」(全10時間計画)

目標	<p>トートバッグを製作する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア トートバッグの製作に必要な材料や用具、製作手順、袋のゆとりの必要性について理解し、目的に応じた縫い方でトートバッグを製作することができる。(知識及び技能)</p> <p>イ トートバッグの製作計画について考え、デザインや製作手順を工夫して製作している。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>ウ 布を用いた袋の製作に必要な材料や手順について関心をもち、意欲的に取り組み、これからの生活に生かそうとしている。(学びに向かう力、人間性等)</p>			
評価規準	<p>(1) 布を用いた袋の製作に必要な材料や手順について関心をもち、学習に意欲的に取り組み、これからの生活に生かそうとしている。</p> <p>(2) トートバッグの製作計画について考え、デザインや製作手順を工夫して製作している。</p> <p>(3) ミシンやアイロンなどを安全に使い、目的に応じた縫い方でトートバッグを製作することができる。</p> <p>(4) トートバッグの製作に必要な材料や用具、製作手順、袋のゆとりの必要性について理解している。</p>			
過程	時間	<p>○ねらい めあて</p>	<p>☆振り返り (意識)</p> <p>◇評価項目 〈方法 (観点)〉</p>	
つかむ	1	<p>※つかむ、追究する1・2の過程で、ボランティアの支援有。</p> <p>○学校生活での袋の活用について振り返って問題を見だし、題材を貫く課題を立て、袋物調べで気付いたことを基に学習計画を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもてるようにする。</p> <p>学校生活を便利にする袋を考えよう。</p> <p>題材の課題 使いやすい算数バッグを作るには、どうしたらよいだろうか。</p>	<p>☆持ち運びが楽になるから、使いやすい算数バッグを早く作りたいな。</p> <p>☆どのような順番で作ればよいのかな。</p>	<p>◇ミシンを使った袋の製作に興味をもち、学習への意欲をもっている。</p> <p>〈ワークシート・発言(1)〉</p>
追究する1	1	<p>○模造紙を使って、ゆとりやマチを調節して算数セットを包んだり、出し入れしたりする活動を通して、使いやすい算数バッグの大きさが分かる。</p> <p>使いやすい算数バッグにするには、どのくらいの大きさにしたらよいだろうか。</p>	<p>☆ゆとりがあると中の物を出し入れしやすくなるのだな。</p> <p>☆どのくらいゆとりがあればよいのかが分かった。</p>	<p>◇ゆとりやマチを加えて、使いやすい算数バッグの大きさが分かる。</p> <p>〈模造紙・ワークシート(4)〉</p>
追究する2	1	<p>○試作布とホチキスを使って縫う順番について話し合う活動を通して、製作手順について理解できるようにする。</p> <p>算数バッグは、どのような順番で縫えばよいだろうか。</p>	<p>☆算数バッグを、脇、出し入れ口、持ち手の順に縫うことが分かった。</p> <p>☆縫う順番を間違えずに作って、仕上がりがきれいになるようにしたい。</p>	<p>◇算数バッグの製作手順について理解している。</p> <p>〈ワークシート・発言(4)〉</p>
追究する2	1	<p>○製作計画を班で検討する活動を通して、算数バッグの製作を工夫できるようにする。</p> <p>デザインを工夫して、算数バッグの製作計画を立てよう。</p>	<p>☆三角定規やコンパスを入れるポケットを付けたいから、先に縫い付けよう。</p> <p>☆出し入れ口を縫う糸の色を変えて、デザインのポイントにしよう。</p>	<p>◇デザインを自分なりに工夫して必要な材料や用具を考え、製作計画を立てている。</p> <p>〈ワークシート・発言(2)〉</p>
追究する2	1	<p>○製作計画を基に、型紙を使って布を裁ち、しるしを付けられるようにする。</p> <p>型紙を使って、布を裁ち、しるしを付けよう。</p>	<p>☆型紙に縫い代を足した分の大きさに布を裁つのだな。</p> <p>☆型紙を布に待ち針でとめて、布を裁って、しるしを付けられた。</p>	<p>◇型紙を使って布を裁ち、しるしを付けている。</p> <p>〈布・観察(3)〉</p>
追究する2	1	<p>○製作計画を基に、算数バッグの脇を縫えるようにする。</p> <p>ミシンの使い方を復習して、脇を真っすぐに縫おう。</p>	<p>☆ミシンを安全にを使って、脇を真っすぐ縫うことができた。</p> <p>☆縫い始めと縫い終わりに忘れずに返し縫いをして、脇を縫うことができた。</p>	<p>◇ミシンやアイロンを安全に使い、目的に応じた縫い方で製作している。</p> <p>〈布・観察(3)〉</p>
追究する2	2	<p>○製作計画を基に、算数バッグの出し入れ口を縫えるようにする。</p> <p>出し入れ口を三つ折りにして、端を縫おう。</p>	<p>☆ミシンの補助テーブルを外して三つ折りの端を真っすぐに縫えた。</p> <p>☆丁寧にアイロンをかけて、三つ折りの端を縫うことができた。</p>	<p>◇縫い方や製作手順を工夫して製作している。</p> <p>〈製作物(2)〉</p>

	1	<p>○製作計画を基に、算数バッグの持ち手を縫えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>持ち手を丈夫に縫い付けて算数バッグを仕上げよう。</p> </div>	<p>☆持ち手は返し縫いをして丈夫に縫い付けられた。</p> <p>☆持ち手の付け位置を測って、左右均等な位置に縫い付けることができた。</p>	<p>◇ミシンを安全に使い、目的に応じた縫い方で製作している。</p> <p><製作物・観察(3)></p>
まとめ	1	<p>○製作した算数バッグを実際に使用して振り返り、評価・改善することを通して、トートバッグの製作についてまとめ、今後の実践に生かせるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>作品発表会をして、トートバッグの作り方についてまとめて、これからの生活に生かそう。</p> </div>	<p>☆肩に掛けられると楽し、両手が空いて便利だから、持ち手を長くして今度は作ってみたいな。</p> <p>☆入れるものや使い方や置く場所も考えてから、布の大きさ、形を決めて、家族にトートバッグを作ってプレゼントしたいな。</p>	<p>◇トートバッグの製作についてまとめ、これからの実践に生かそうとしている。</p> <p><ワークシート・観察(1)></p>